

変化の波を捉え、「稼ぐ力」で地域の躍動を創り出す



**2026年岐阜商工会議所
年頭記者会見**
1月8日(木)、村瀬会頭と4名の副会頭が
そろって年頭記者会見を行い、本年の事業活
動について発表しました。

不透明な世界情勢と市場の変容

昨年の日本経済を振り返りますと、長年わが国を覆っていたデフレマインドからの脱却が着実に進み、賃金と物価の好循環に向けた確かな胎動を感じる一年でございました。この前向きな流れは、本年も継続していくものと確信しております。

国政においては、憲政史上初の女性総理として高市総理が就任されました。政府が掲げる「強い経済」の構築に向けた成長戦略、とりわけ重点投資分野への大胆な施策が着実に実行され、日本経済が新たなステージへと飛躍することを強く期待するものであります。

一方で世界情勢に目を向けますと、依然として不透明な状況が続いております。年明け早々、米国によるベネズエラへの攻撃といった地政学リスクが発生し、国際秩序を揺るがす動きが見られました。株式市場の反応は、かつてこうした事象は市場を冷え込ませる要因となりましたが、現在の日米市場は「負の要因」とせず、むしろ上昇基調を維持しております。この既存の常識に当てはまらない市場動向は、我々が変化の本質を見極めるべき局面にあることを示唆しているのではないのでしょうか。

第一の柱 中小企業・小規模事業者の経営課題解決

本年、当所が最優先で取り組むべき第一の柱は、中小企業・小規模事業者の皆様の「経営課題解決」への伴走型支援です。

昨今の重要課題である「賃上げ」に関し、東海地域の企業の八割以上が実施を検討しているとの調査結果がございます。ここで改め



岐阜商工会議所
会頭 村瀬 幸雄

て強調申し上げたいのは、賃上げとはそれ自体が「目的」ではなく、売上や利益が向上した「結果」として実現されるべきものであるという点です。会員企業の皆様にとつて真に肝要なのは、付加価値を高め、自らの力で収益を上げる「稼ぐ力」を一層強化することに他なりません。

人手不足の解消、AI・デジタル技術の導入による生産性向上、新たな販路の開拓、あるいは独創的な商品・サービスの開発など、課題は企業ごとに多岐にわたります。当所は本年、それぞれの企業の課題に深く向き合い、解決に向けて共に歩む一年としてまいります。具体的な取り組みの一環として、本年は岐阜の伝統産業である織維分野において、イタリアの世界的な紳士服展示会「ピツティ・イマジネ・ウオモ」への出展を計画しております。岐阜市と強力で連携し、地場産業が国際舞台でその価値を証明できるよう、総力を挙げて支援してまいります。

第二の柱 未来を見据えた「まちづくり」への参画

第二の柱は、未来を見据えた「まちづくり」への参画です。

現在、岐阜市の中心市街地では、若年層による新規出店やイベント開催など、新たな活力が生まれております。JR岐阜駅前および名鉄岐阜駅前の二大プロジェクトの進捗に加え、柳ヶ瀬地域における長崎屋跡地の活用や高島屋跡地の進捗など、長年の懸案がいよいよ具体的な形となって動き出します。当所といたしましても、高い関心を寄せ積極的に関与してまいります。

また、行政が進める大学の都心移転や、県が検討しているLRT計画といった中長期的なビジョンについても、商工会議所の果たすべき役割を鑑み、積極的に参画してまいります。

第三の柱 観光振興とナイトタイムエコノミーの拡充

三点目は観光振興、特に「ナイトタイムエコノミー」の充実です。本年はこの取り組みを具体化し、夜間の観光資源を拡充することで、地域経済をより力強く活性化させていくことを目指しております。

岐阜には、鶴飼観覧や花火大会といった全国に誇るべき「キラコンテンツ」が存在します。これらは本市におけるナイトタイムエコノミーの象徴的な行事です。これに加え岐

阜市は、新たに「三大山城夜景」を掲げており、夜景観光の推進にも注力してまいります。折しも今年から約一年の間、岐阜城は修復工事のため日中の観覧が制限されますが、これを「夜の好機」と捉えてまいります。金華山からの秀逸な夜景観光を、従来の鶴飼観覧と合わせ、官民一体となって充実させていく絶好の機会です。ただし、ナイトタイムエコノミーの確立には、ロープウェイの夜間運行、駐車場の夜間営業の拡充、飲食店や土産物店等の商業施設の夜間対応など、克服すべき課題も少なくありません。また、岐阜駅前やホテル・旅館が集中する地域からのアクセスが整備されて初めて、一つの経済圏として機能します。当所としても、実現に向けた積極的な提言と道筋づくりを行ってまいります。

最後に、昨年十一月の新体制発足に際し、「ぎふまち未来ビジョン」の策定を開始いたしました。若手職員を中心に作成を進めております。当所が理想として思い描く、岐阜の街の姿をビジョンとして取りまとめ、公表を予定しております。

2026年事業活動について

- 1 中小企業等の支援**
- 中小企業支援による地域経済活性化
 - 創業支援
 - 事業継続力強化支援
 - 生産性向上に向けた「デジタル化」支援
 - 持続可能な経済社会の推進に向けた支援
 - 産官学連携によるビジネスマッチングの推進
 - 海外展開支援
 - 広域連携による新たなビジネスチャンスの創出
 - 人手不足解消に向けた人材確保支援
- 2 まちづくりへの参画**
- 岐阜市中心市街地の活性化に向けた取り組み
 - 観光資源・産業基盤を活用したまちづくり

- 3 観光振興**
- 岐阜市観光の魅力を全国に発信できる持続可能な観光連携体制の整備
 - 「ぎふ長良川花火大会」の開催
 - 持続可能な観光振興「長良川ブランド」事業推進
- 4 会員サービスの充実と組織・運営基盤の強化**
- 記者発表会の開催
 - 会員向け損害保険制度の推進
 - 福祉制度事業の推進

- 5 人材育成**
- 各種検定試験の普及推進
 - 研修・セミナーを通じた人材育成
- 6 地域産業の付加価値創造と競争力の強化**
- 地域資源「アパレル」を活用した岐阜ブランドの推進
 - 「食」に関わる観光土産品等地域資源のブランド化

- 7 社会・産業基盤の整備促進**
- 東海環状自動車道・西回りルートの建設促進
 - 岐阜南部横断ハイウェイの建設促進
 - 国道22号線の2階建てによる名岐道路の建設促進
 - 名鉄名古屋本線・各務原線鉄道立体化促進



インフラ整備・観光振興に 注力

副会頭 井手口 哲朗

昨年の東海環状自動車道・岐阜 IC 開通により、広域ネットワークが大きく前進したことは誠に喜ばしい限りです。真の役割は名古屋圏の大環状線としての機能発揮にあり、早期4車線化が不可欠。その他のインフラ整備も含め、引き続き強力な陳情活動を展開してまいります。また観光振興では、「長良川ブランド事業」の推進に引き続き力をいれて取り組んでいきます。



中小企業支援、 繊維産業の持続的発展へ

副会頭 廣田 孝昭

中小企業の発達支援を最優先に注力してまいります。また繊維業界では、1月、6月にイタリア・フィレンツェで開催される「ビッティ・イメージ・ウオモ」に参加します。一過性で終わらせることなく持続的な連携・発展につなげていきたいと考えています。また従来から岐阜ブランドの育成として進めている「岐阜シャツプロジェクト」では、スタートアップ企業の新素材とのコラボレーションが進んでいます。新たなチャレンジの後押しをしてまいります。



柳ヶ瀬の昭和レトロを 観光資源に

副会頭 山口 嘉彦

柳ヶ瀬の我々が幼少期に胸を躍らせた「懐かしさ」は、今や若い世代やインバウンド客を惹きつける「昭和レトロ」という強力な観光資源です。外国人も含めた観光客の方々を見かけるとどんな感想をもたれたのかと気になります。オーバーツーリズムに悩む有名観光地もありますが、本市にはまだ活用できる魅力が眠っています。駅から金華山周辺までを1日周遊できるよう磨き上げ、「行ってよかった街・岐阜」を戦略的に発信していくことが重要と考えます。



戦略的な人流の創出で、 中心市街地を活性化

副会頭 澤田 栄一

岐阜の街は、中心市街地の活性化が急務です。「人の流れ」に注目し、学生が回遊することで生まれる消費や雇用、商圏ができることを期待する提言を行っていきたく考えています。また、タクシーやバスなど交通インフラについては自動運転技術の進展・普及を見据えた都市計画を想定し、それらを活用した効率的な運用方法を議論し検討していければと思っております。

